

社報 御霊本宮

第91号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和3年
12月15日

一陽来復

冬至は二十四節気の一つで、一年で夜が最も長く、昼が短い日です。

日本から見れば、太陽が一番南にある状態で、この日を境に、徐々に太陽が北に移動していきます。つまり、昼の時間が少しずつ長くなっていきます。

冬至には「一陽来復」という別名が付けられています。この日から太陽が北に移動するという事は、北半球に春の到来を告げることとなります。また、昼が長くなるということは陰から陽に転じて行くことを意味します。このようなことから冬至を一陽来復、または一陽嘉節と呼んで祝うようになりました。

また、日本では、冬至は太陽の力が

一番弱まった日であり、この日を境に再び力が甦ってくるという考え方が生まれます。転じて、悪い事が続いたあと、ようやく好運に向かうことの意味も含まれるようになりました。

冬至を境に運氣持も上昇するとされているので、かぼちやを食べて栄養を付けたり、身体を温めるゆず湯に入ったりして無病息災を願います。

神柚を授与します

本社では境内に成っている柚を参拝者の皆様に授与します。社頭に置いておきますので、ご自由にお持ち帰りください。

配布期間 十八日〜二十二日

無くなり次第、配布終了となります。

ゆず湯

江戸時代には

冬至の日に銭湯に柚子を輪切りにして入れて沸かす柚子湯があったといわれています。



日本には古来、新年の丁子湯、暑中の桃の湯、五月五日の菖蒲湯、冬至の柚子湯など、それぞれ悪疫、災厄をはらう縁起の湯とする風習があります。

一説に、湯治と冬至、身体息災であれば融通(柚)が利くとの語呂合わせであるともいわれます。

科学的には血液の流れを良くする血行促進効果があり、風邪の予防だけではなく、冷え性や神経痛、腰痛などを和らげる効果があるとされています。また、果皮に含まれるクエン酸やビタミンCにより、ひび・あかぎれを改善し、皮の芳香油が湯冷めを防ぐともされています。

万葉の花たち

さかき(ヒサカキ)

ひさかたの天の原より生れ来たる
神の命 奥山の賢木の枝に

しらかつけ木綿とりつけて (長歌)

大伴坂上郎女 (三―三七九)

「高天原より生まれたる祖先の神よ、奥山の神の枝に白い木綿を取り付けて…」と神を祀る歌ですが、「君に逢はじかも」と続くことから、「愛しい人に会えないのでしょうか」という恋の成就を祈った歌になっています。今も昔も変わらぬ、神頼みですね。木綿は楮の樹皮をはいで糸状にしたもので、幣として神事や祭のときに榊にかけます。



サカキは境木で、神域との境界に植えられました。

宇智郡 狛犬めぐり
島野町 御霊神社

明治三年

(一八七〇

)に奉納されて

います。

石の材質

のため、全

体が真っ白

に見える狛

犬です。

特徴は、

おかつぱの

ように見える垂れ下がった大きな耳

です。また、ぎよろつとした大きな丸

い目も特徴のひとつです。

顔が上向きになって

いるため、反り

返るような体形になっ

ています。鼻も

上向きで、数少ない鼻高の狛犬です。尾は団扇型ですが中央に巻毛がなく、葉脈のような線が刻まれているので木の葉のように見える尾です。



神道七福神めぐりに
参加しませんか

五條文化博物館では、一月十五日

(土)に、市内の神社を巡る神道版の

七福神めぐりバスツアーを実施しま

す。七福神は一般には、恵比寿天、大

黒天、毘沙門天、弁才天、福祿寿、寿

老人、布袋尊といわれています。これ

らの神々を神道の神々に置き換える

とどんな神々となるのでしょうか。

実施日 令和四年一月十五日(土)

雨天決行 積雪・凍結の場合

は中止

時間 午後一時〜四時

服装等 山道を五分ほど登る所もあり

ますので歩く服装や靴でお

越してください

持ち物 飲料水 雨具

定員 高校生以上 十一名(先着)

参加費 五〇〇円

申込 〇七四七(三〇) 四七一六

とししのおおはらえ
年越大祓・除夜祭を
斎行します

大祓は六月(夏

越大祓)と十二月

の半年に一度行わ

れます。

この半年に知ら

ず知らずのうちに

身に付いた罪穢(

けがれ)を祓い、心身ともにリフレッ

シュします。特に年越大祓は人形に罪

穢れを遷して厄を祓い、新年にむけて

活力を甦らせるための神事です。

日時 十二月三十一日

午後三時〜

拜殿にて当日の午後二時四

十五分頃から受け付けます

初穂料 一人または一家族三〇〇円

御神札は一家族に一体授与

神事 人形による除厄

参列者の健康長寿祈願



八百万の神々

やしましぬみのかみ
八島土奴美神

素戔嗚尊が八岐大蛇の退治のあと

に櫛名田比売と結婚します。最初に生

まれたのが八島土奴美神です。

古事記では、八島土奴美神から遠津

山岬多良斯神まで十五柱を指す十七

世神の初代とされます。十五柱の神の

名が挙げられていますが、なぜ十七な

のかは不明です。

日本書紀では清之湯山主三名狹瀬

彦八嶋篠など三つの名で表記されて

います。

「八島」は「多くの島々」、「土」は

「知」(領有する)、「奴」は「主」、「美

は「神霊」と解し、名義は「多くの島々

を領有する主の神霊」と考えられてい

ますが、功績などは記されておらず、

不明なことが多い神です。

なお、先代旧事本紀では八島土奴美

神の別名を大己貴神(大国主命)とし

ています。

五條十八景を訪ねて

第十五景 「城山夕照」

石磴の烟蘿 雨後の青

古城人去り 塵空しく経たり

夕陽半嶺 雲帰する処

白鳥斜めに横ざる 雙画の屏

石の階段にまつわりつくかすかな
蔦も雨にぬれて青々としている。古い
城にはすむ人もなくなったまま、長い
年月が過ぎてしまった。夕陽の沈む
山、それはまた雲の宿りでもある。二
羽の白鳥が横切って飛ぶ様を描いた
屏風のような風景。

ここに出てくる城は二見城のこと
です。現在は民家や施設などが建つて
いたり空地になっていたりして面影
はありません。城があったことを示す
の一枚の説明板だけです。



この説明板には次のようなことが
書かれています。

「二見城は中世この地域に勢力を持
っていた二見氏の館を前身とし、慶長
十三年（一六〇八）七月、五條二見藩
一万石余の城主として入国した松倉
豊後守重政が、近世城郭に改築したも
のである。（中略）江戸時代の和州二
見城図によると、城は本丸と二の丸が
南北に連
なり、城
南西に馬
場が描か
れている。
（中略）
本丸の東
西が四十



二見城説明板

間、南北が三十間と小規模な城である
が、河岸段丘上の地形を巧みに利用し
て築城したもの（後略）」

絵は北側から見たものでしょうか。

吉野川が大きく曲がり、そのところを
描いていると思われます。絵を見て
も、城や館らしきものは描かれていま
せん。

詩は宝永年間（一七〇四〜一七一
年）に詠んだもので、その約百年後の
文化年間に絵が描かれました。詩が詠
まれた頃はまだ城が残っていて、絵が
描かれた頃には解体されていたと推
測できます。



残念ですが

本社の本殿の前には二本のモミジ
の木があります。一方の木は十月中旬
から色づき始め、落葉が始まる十一月
中旬からは、もう一方のモミジが色づ
き始めます。どちらも見事な紅色で、
落葉すると神域は真っ赤な絨毯で覆
われます。この時期に初宮詣や七五三
詣に来た家族には、モミジを背景にし
て記念写真を撮っていただいています。

残念ながら、はじめに色づく方の木
が枯れてしまい、一週間ほど前に伐採
しました。重機が入らないので人力に
よる伐採でしたが、氏子の皆さんの協
力を得て、一日かけて無事に行うこと
ができました。

定かではありませんが、昭和十九年
に植えられたと思われるモミジで、約
八十年間、参拝者の目を楽しませてく
れたモミジでした。

Instagram @goryohongu
Twitter @goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を
付けて投稿してください。
公式ホームページ
<http://goryojinja.or.jp>

日本書紀にみる

十二代景行天皇(八)

二十八年春二月一日、日本武尊は熊襲を平定した様子を奏上して、「私は

天皇の御靈力によって、兵を挙げて戦

えば、熊襲の首領も殺してその国を平

らげました。それで西の国も鎮まり、

人民は事なきを得ました。ただ、吉備

の穴渡の神と難波の柏渡の神は人を

害するところがあつて、悪気で通行人

を苦しめ、悪人の巢となつていまし

た。そこで、全てその悪神を殺して水

陸の道を開きました」と言いました。

天皇は日本武尊の手柄を褒めて、特

に分かりませんでした。

日本武尊が「私は先に西の征討に働

かせて頂きました。今度の役は、大碓皇

子が良いでしょう」と言いました。

そのとき、大碓皇子は驚いて草の中

に隠れました。

しかし、使者を遣わして連れてこら

れ、天皇は「お前が望まないのを無理

に遣わすことはない。何ごとだ。まだ

敵にも会わないのに、そんなに怖がつ

たりして」と言いました。

これによつて、ついに美濃国を任さ

れ、任地に行かされた。これが身毛津

は邪神、野には姦鬼がいて、往来もふ

さがれ、多くの人が苦しめられている。

その東夷の中でも、蝦夷は特に手強

い。男女親子の中の区別もなく、冬は

穴に寝、夏は木に棲む。毛皮を着て、

血を飲み、兄弟でも疑い合う。

山に登るには飛ぶ鳥のようで草原を

走るとは獣のようであるという。恩

は忘れるが怨みは必ず報いるという。

矢は髪を束ねた中に隠し、刀を衣の

中に帯びている。あるいは、仲間を集

めて辺境を犯し、実りの時期を狙つて

作物をかすめ取る。攻めれば草に隠れ

さつているのだろう。天下もお前

のものと然である。

どうか深謀遠慮をもつて、良くない

者は懲らしめ、徳をもつてなつかせ、

兵を使わず、自ずから従うようにさせ

よ。

言葉を考えて暴ぶる神を静まらせ、

あるいは、武を振つて姦鬼を打払え」

と言いました。

日本武尊は將軍の位を賜わり、再拜

して、「かつて、西征の時は皇威を頼り、

三尺の短い剣をもつて、熊襲の国を討ち、そして幾ばくもなく賊將は罪に服しました。今また神祇の靈に頼り、皇威をお借りして出かけて行き、徳教を示してもなお、従わない者があれば、兵をもつて討伐しましょう」と言いました。

天皇は吉備武彦と大伴武日連とを日本武尊に従わせられました。また、七掬脛を膳夫(調理を担当する者)としました。

(次号につづく)